水曜通信 10

2018年
2月

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

第10回水曜礼拝（公開大学礼拝）
2018年２月21日（水）18:30-19:00

説教：佐藤 司郎（本学教授）
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

＜礼拝次第＞

前　奏：J.S.バッハ「天にまします我らの父よ」BWV762
讃美歌：39番「ひくれてよもはくらく」
聖　書：マルコによる福音書　15章24～28節
讃美歌：404番「やまじこえて」
説　教：「くじを引いてその服を分け合い」
祈　祷
頌　栄：539番「あめつちこぞりて」
後　奏：J.ブラームス「装いせよ、おお魂よ」

後奏の後、小野なおみ氏（本学礼拝オルガニスト）のオルガン演奏による讃美があります。

3月の水曜礼拝はお休みです。
次回第11回水曜礼拝は**4月18日**です。

第９回水曜礼拝報告（説教：鐸木 道剛、奏楽：小野 なおみ）

2018年１月17日（水）18：30－19：05

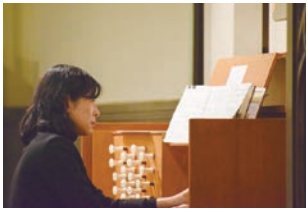
讃美歌：121番「まぶねのなかに」
聖　書：マタイによる福音書　10章34～39節
　　コリント信徒への手紙第一　12章21～27節
説　教：「すべては主のため」
讃美歌：122番「みどりもふかき」
頌　栄：540番「みめぐみあふるる」

【説教要旨】

マタイ伝ではイエスは父を捨てよ、母を捨てよという。

旧約聖書の十戒では「父と母を敬え」と書いているのに、これはどういうことだろう。我々も神の愛を実践せよという。しかし愛とは具体的にはどうすればよいのか。コリント前書第13章にいうように、愛とは謙遜である。しかしそれを主張することと実践することは違う。福音に聞く説教をされ『説教集』も編まれている鈴木正久（1912-69）は「世界観と信仰」という1968年の説教で、謙遜であれと主張することは世界観であって、謙遜であることが信仰であるという。我々はキリストに繋がってキリストの体の一部として生きる。そのうえで世界は、そして父と母を含む家族も意味をもつ。有限を、そして死を乗り越えることができる。（鐸木道剛）

前　奏：G.ベーム「天にます我らの父よ」
後　奏：F.リスト「後奏曲」

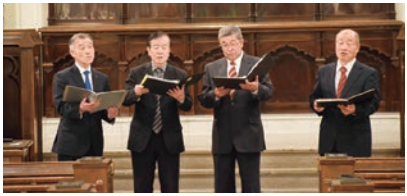


G.ベームはバロック時代に活躍したドイツの作曲家です。鍵盤楽器向けに書かれた作品はバッハにも大きな影響をあたえました。この作品は学院大の礼拝でも前奏としてしばしば演奏されています。F.リストはハンガリー生まれのドイツ・ロマン派の作曲家で、作曲家、ピアニスト、教会音楽家など大変幅広く活躍しました。（小野なおみ）

礼拝とその後の19時10分から30分までのモリゴー・フォーの男声四重唱による讃美に39名の市民が参加されました。

礼拝後、モリゴー・フォー（男声四重唱）による讃美

1972年5月に結成したモリゴー・フォーは、東北学院大学時代にグリークラブや聖歌隊に所属していた四人のクリスチャン青年が「大好きな歌で神様を讃美しよう」と結成した男声カルテットです。宮城県利府町にあるキリスト教森郷キャンプ場で知り合ったことから「モリゴー・フォー」として活動を開始し、ふたりの女性（ピアニスト、ナレーター）を加えて、6人で演奏活動をしています。一昨年から活動を再開し、最近は瀬戸内海や北海道にある小さな教会でもご奉仕しています。今回の水曜礼拝では、讃美歌243番、332番、338番、新聖歌325番、そして水野源三作詞の「主から受けし」を讃美しました。（日野哲）



― ステンドグラス修復の進捗状況 ―

パテ掃除

仕上げ、はみ出したパテ掃除

ステンドグラスの修復も最後の工程に入ります。パテ詰めが終わったパネルは、馬毛のブラシで丹念に表裏を磨きます。しっかりと磨かれることにより鉛とハンダの表面の金属的な色合いが落ち着いてきます。ガラスの表面に付着したパテも取り除かれ、85年前の焼成後の艶のあるガラスの面が甦ってきます。そして窓にあらかじめ取付けられている補強棒に接続するために、パネルの外側になる面に銅製の針金をハンダ付けしておきます。この針金と補強棒を結び付ける事によって、ステンドグラスパネルは窓枠に宙づりにされている状態になり、荷重が下底面に集中することを防ぎ、地震などの揺れにフレキシブルに対応する免震構造に近い形になります。又、たわみの軽減にも最良の方法と云えます。2月末の取り付けの日が良き日になります様に

（光ステンド工房代表　平山健雄）

ランカスター神学校の礼拝堂にみる日本伝道

1825年創立のランカスター神学校が、フランクリン＆マーシャル大学の南の今の場所に移ったのは1893年。そのときに建設されたSantee礼拝堂は1925年に改築され、ステンドグラスもそのときのものです。制作はボストンのReynolds, Francis and Rohnstock工房。旧約から新約、ルターと宗教改革者たちを描くなかに、ハイデルベルグ信仰告白そして伝道を描くパネルがあります。その伝道パネルは、種蒔く人、刈り取る人、イエスとサマリアの女、世の光としてのキリストの４面で、その下に日本の鳥居と富士山が描かれ、銘文は「Paul F. Schaffner 1915 Missionary Japan 1925」とあります。このシャフナー師は、まさに1915年から東北の伝道に従事し1925年に若くして亡くなった宣教師であることが、宮城学院の西川淑氏と東北学院の日野哲氏の調べでわかりました。ここで特にシャフナー師を記念しているのは、ステンドグラス取付の1925年に亡くなったからかもしれません。　（鐸木道剛）

2月24日ラファージ・シンポジウムのお知らせ

ジョン・ラファージ『歓迎』
1908-9年　164x96 in.
メトロポリタン美術館

日時：2月24日（土）13：00－18：00
場所：ホーイ記念館ホール

本学のラーハウザー記念東北学院礼拝堂にあるステンドグラスと関連付けて、アメリカのステンドグラスの復興者であるジョン・ラファージ（1835-1910）についてのシンポジウムを開催します。

1886年に日本に滞在したラファージはアメリカのジャポニスムのパイオニアでもあります。そのステンドグラスはティファニーによって、世界的に知られるようになります。
シンポジウムの趣旨説明は鐸木道剛（本学教授）。
パネリストは以下の方々です。
有木宏二（美術史家）、フィリス・フロイド（シアトル大学准教授）、ケイティ・クレッサー（ミシガン大学准教授）、五味良子（埼玉県立近代美術館学芸員）
申込不要、どなたでも参加できます。

ステンドグラス再設置作業公開と修復完了記念礼拝のお知らせ

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂のステンドグラスの修復が終わりました。ようやく礼拝堂に帰ってきます。その再設置作業の公開と、修復完了記念礼拝と講演つづいて音楽による讃美をします。いずれも礼拝堂にて一般公開します。
申込不要です。

＊ステンドグラス再設置作業公開
2月27日（火）再設置最終日14：00 -16：00
ステンドグラス修復を担当された光ステンド工房（横浜）
代表の平山健雄氏が設置の作業を解説します。

＊ステンドグラス修復完了記念礼拝
3月2日（金）13：00 -16：00
13：00 -13：30　ステンドグラス修復完了記念礼拝
説教：野村信（本学教授、宗教部長）
奏楽：今井奈緒子（本学教授）
13：30 -14：40　平山健雄氏による記念講演「甦るひかり」
14：40 -16：00　音楽による讃美
今井奈緒子（本学教授：オルガン）
中川郁太郎（本学特任准教授：バス、バリトン）
グリークラブOB合唱団

2017年7月26日撮影（修復前）

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：
学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第10号
2018年2月10日発行
〒980-8511　仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL：022-264-6547
E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/